

最終号の発刊にあたって

公益社団法人 愛知県看護協会
会長 三浦 昌子

平素より、愛知県看護協会の事業にご協力、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。
新型コロナウイルス感染症は令和2年2月ころから拡大し、3年と3カ月が経過しました。
得体のしれない感染症は、今まで私たちが経験した事のない日常をもたらし、社会生活は大きく
変化し、医療提供体制にも大きな影響を与えました。

本会は常に、医療の現場や県民が何に困っているのかという状況を調査し、そのデータを基に
県・行政に要望すると共に、看護職能団体として何が出来るかを考えながら事業を進めてきました。

コロナ関連事業においては特に、潜在看護師やプラチナナースが活躍する機会が増えました。
これを転機に本会はナースセンターと連携しプラチナナース登録制度システムを創設し、セカンド
キャリアを活かした働き方ができるよう教育体制を整えました。令和5年度は、中小規模病院の支援
にプラチナナースを派遣するシステムへと発展させていきます。また、クラスター発生時の看護師
派遣事業を教訓に、令和2年度より近隣の医療機関で看護活動を助け合う地域災害応援ナースと
いう愛知県独自の体制を整備することもできました。いずれもコロナ禍の苦しい経験を教訓として、
試行錯誤しながら取り組み、創設してきた事業です。

その活動記録は令和3年7月に第1報、令和4年6月に第2報として報告いたしました。今回の
活動報告はコロナ関連事業の最終号としてまとめました。

新型コロナウイルス感染症は令和5年5月には感染症法5類に分類され、令和5年度継続する
事業は、新型コロナワクチン長期的な副反応相談窓口事業のみとなりましたが、今後もその動向を
注視していきます。

本会事業に、ご協力、ご支援いただきました皆様へ心よりお礼申し上げます。今後も会員と県民の
皆様のご期待に沿えるよう努めてまいります。



【令和5年4月25日】

愛知県知事から、新型コロナワクチン大規模集団接種会場への協力に
対して感謝状をいただきました。